

## 令和元年度 あきたスマートカレッジ 講座報告

### D あきた温故知新 (定員120名、D6・D7は各40名)

|     | 日   | 時              | テーマ                                                                      | 講師                             |
|-----|-----|----------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
|     | D1  | 5/11<br>(土)    | 地域を歩いて新旧の重なりを知る<br>～地域学の楽しみ方初歩～                                          | 秋田大学教育文化学部 教授 篠原 秀一 氏          |
| 岩手県 | D2  | 6/1<br>(土)     | 木のおもちゃ美術館の挑戦<br>～地域資源を活用した産業等の活性化～                                       | 由利本荘市教育委員会生涯学習課 課長待遇 佐藤 弘幸 氏   |
| 仙北市 | D3  | 7/6<br>(土)     | 10:00～11:30<br>奇跡の魚クニマスー幻の魚は生きていた！<br>～過去は未来への扉～                         | 仙北市田沢湖クニマス未来館 館長 大竹 敦 氏        |
|     | D4  | 7/20<br>(土)    | 変わる日本史<br>～昔の教科書・今の教科書～                                                  | 元秋田県立博物館主任学芸主事 佐藤 隆 氏          |
| 山形県 | D5  | 8/24<br>(土)    | 株式会社アルピオン白神研究所の植物研究                                                      | (株)アルピオン 白神研究所 所長 駒井 史訓 氏      |
| 秋田県 | D6  | 8/31<br>(土)    | 午前 10:00～12:00<br>【移動学習】 土崎みなと歴史伝承館を訪ねて 当センター発着<br>～日本最後の土崎空襲体験を聞く～ バス移動 | 土崎被爆市民会議 会員 伊藤 津紀子 氏           |
|     | D7  | 午後 13:30～15:30 | D6・D7は同一内容です。どちらか1つを選択してください。                                            |                                |
|     | D8  | 9/28<br>(土)    | 民俗学って何だろう<br>～民俗学のい・ろ・は～                                                 | 秋田県立博物館 主査(兼)学芸主事 丸谷 仁美 氏      |
|     | D9  | 10/19<br>(土)   | 10:00～11:30<br>ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のなまはげ」<br>～地域調査からなまはげを知る～              | 男鹿市文化財保護審議会 会長 天野 莊平 氏         |
|     | D10 | 11/16<br>(土)   | 「ごじょうめのわらしだ」に見るなつかしの昭和<br>～平成を超えて語り継ぎたいもの～                               | イラストレーター 大石 清美 氏               |
|     | D11 | 12/21<br>(土)   | これからの「秋田県の観光」<br>～魅力と課題について私が思うこと～                                       | 一般社団法人秋田県観光連盟 観光ディレクター 鈴木 郁夫 氏 |

秋田の風土や民俗、文化を学ぶことにより、秋田のよさを再発見し、秋田の未来を考えながら県内の魅力を総合的に学ぶことにより、地域学習への展開を促す講座として開催し、延べ539人が参加しました。

#### D1 5月11日(土) 地域を歩いて新旧の重なりを知る ～地域学の楽しみ方初歩～

秋田大学教育文化学部 教授 篠原 秀一 氏



「ゆっくり歩き、立ち止まっては観察し、複数であれば会話を楽しむ」「『地域』はごく身近に広がっている。手のひら(＝スマートフォンなど)の中に『世界』はない」など、地域について学び、比較し、考察を深めるための方法や意識すべきことを学びました。その上で、秋田市と宮古島の「石敢当」や「マンホール」について画像を見ながら、具体的な比較の仕方を学びました。

#### D2 6月1日(土) 木のおもちゃ美術館の挑戦 ～地域資源を活用した産業等の活性化～

由利本荘市教育委員会生涯学習課 課長待遇 佐藤 弘幸 氏



「地域資源を活用した一次産業の活性化」に注目が集まる中で、由利本荘市は地域資源を活用した新しい産業の育成を図るため、「木育(もくいく)」に主眼を置いた取り組みを行っており、①豊かな森林資源を利用することで地域木材産業の活性化をはかり、②木のおもちゃや遊具による「子どもの遊び場」を作るため、『木のおもちゃ美術館』を開館させたことを学びました。

### D3 7月6日(土) 奇跡の魚クニマスー幻の魚は生きていた! ~過去は未来への扉~

仙北市田沢湖クニマス未来館 館長 大 竹 敦 氏



クニマスや田沢湖に関する基礎的な知識(クニマスの特徴、人とクニマスの共生のあり方、水温・pHなど田沢湖の水質)を得た上で、昭和の初めに仙北地方を襲った大凶作から人々を救うため、玉川の水を田沢湖に入れその酸性を弱めた結果クニマスが絶滅したこと、昭和初期に行われたクニマスの人工採卵と他県への分譲、それに加えて産卵場の環境条件が偶然同じだったことが、クニマス70年ぶりの奇跡の発見につながったことを学びました。

### D4 7月20日(土) 変わる日本史 ~昔の教科書・今の教科書~

元秋田県立博物館主任学芸主事 佐 藤 隆 氏

研究の進展によって、歴史の教科書はその内容が変わっていきます。その例として、以下のような「記述の変化」が示されました。

- ・縄文後期にはすでに稲作開始。 ・邪馬台国、現在は畿内説が有力。
  - ・表記の変化(「大和朝廷」→「ヤマト政権」、  
「聖徳太子」→「厩戸皇子」、「大化の改新」→「乙巳の変」など)
  - ・最古の貨幣は「和同開珎」ではなく「富本銭」。
  - ・鎌倉幕府の成立年代は、1185年が有力。
  - ・有名な肖像画(源頼朝、足利尊氏(右画像)、武田信玄)は、本人ではない可能性が高い。 ・「鎖国」は江戸後期に長崎で生まれた言葉。
  - ・「慶安の触書」は実際にはなかったらしい。 ・田沼政治の再評価。
- これらを通じて、教科書は決して固定的なものではなく、「生き生き」とした知識の集合体であることを学びました。



### D5 8月24日(土) 株式会社アルビオン白神研究所の植物研究

(株)アルビオン白神研究所 所長 駒 井 史 訓 氏



アルビオン白神研究所は藤里町に拠点を構え、化粧品原料となる植物の研究、試験栽培の実施と量産化の検討、原料植物の量産・収穫・加工・出荷を行っています。良質な水や豊かな自然環境を生かし、東京ドーム1.5個分の農地にハーブやヨモギ、ハッカ、ベニバナなどを手作業で栽培し、原材料のトレーサビリティや高付加価値化を実現しました。また、化粧品の材料・ワインの原料としてのブドウ栽培にも取り組むようになり、県北地域・地元の藤里町とのつながりを強めています。

### D6・D7 8月31日(土)

土崎みなと歴史伝承館を訪ねて ~日本最後の土崎空襲体験を聞く~

土崎被爆市民会議 会員 伊 藤 津紀子 氏



土崎空襲を体験した方々の証言を記録したDVDを見た後、講師から実際の土崎空襲の悲惨さ、少しの判断の違いが生死に直結したことなどを伺い、実際に投下された爆弾の破片に直接触れる機会を得ました。「当時県南に住んでいたが、空襲の夜、土崎方面の空が真っ赤になっていた」「土崎の方から一晩中、ものすごい音が聞こえていた」など、戦争の悲惨さ、恐ろしさと「戦争を二度と繰り返してはならない」ことを強く感じました。

## D8 9月28日(土) 民俗学って何だろう ～民俗学のい・ろ・は～

秋田県立博物館 主査(兼)学芸主事 丸 谷 仁 美 氏



民俗学とは、柳田國男が提唱した学問であり、文字で記録された資料にたよって歴史をたどるのではなく、現在の事象から人間の事象を追求する性格を持ち、文字資料だけではなく生活道具や人々の話なども利用することを理解しました。

その上で、男鹿市飯ノ森のナマハゲ行事や北秋田市七日市葛黒集落に伝わる火祭りがまくら行事の中止と復活の経過を聞いて、行事を復活させた人々と地域住民との関係が重要であることを学びました。

## D9 10月19日(土) ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」 ～地域調査からナマハゲを知る～

男鹿市文化財保護審議会 会長 天 野 莊 平 氏



昭和52年と平成27年に行われたナマハゲ行事に関する調査結果を比較し、ナマハゲ役としてナマハゲ行事に初めて参加する年齢や行事参加を退く年齢がともに高齢化していること、ナマハゲの呼称が男鹿半島内でも20種類近くあること、秋田県内においても県北・中央地区を中心にナマハゲ類似行事は広く分布していることなどを学びました。また、様々なナマハゲの面や持ち物などの画像を見て、ナマハゲ行事の多様性や幅の広さ・奥深さを感じることができました。

## D10 11月16日(土)

「ごじょうめのわらしだ」に見るなつかしの昭和 ～平成を超えて語り継ぎたいもの～

イラストレーター 大 石 清 美 氏

講師は五城目町の広報に、昭和の農村の子どもたちの暮らしの様子を、懐かしくほのぼのとしたタッチで連載を続けています。今回はそのうち、町の駄菓子屋をめぐる子どもたちの姿を自身の絵を元にお話ししていただきました。

ふりかけや昆虫採集セット、お化けのおもちゃや火薬のおもちゃなど、受講者の多くが実際に体験してきたこともあり、隣の受講者と昔を懐かしがったり、「わかるわかる」とうなずいたりするなど、会場は温かい雰囲気になりました。



## D11 12月21日(土) これからの「秋田県の観光」～魅力と課題について私が思うこと～ 一般社団法人秋田県観光連盟 観光ディレクター 鈴 木 郁 夫 氏

旅館利用者のアンケート調査結果では、秋田県は東北地方の他県と比べ、客室・夕食・朝食・「おもてなし」に対する評価が低い、それはがんばっているもののやり方が下手であることがわかりました。その後、講師が実際に旅行商品として企画した「なまはげ郷神楽」の活動や、湯沢市の泥湯温泉や川連漆器の体験・見学ツアーの説明を通じて、地域のリーダーの存在と育成が必要であることや、おもてなしの心を学び、知恵を磨き、行動で示すことが観光振興に繋がることを学びました。

